2　新市の概況

２－１　位置・地勢・面積

３町の区域は、愛知県西部、尾張平野のほぼ中央に位置し、南部は名古屋市に隣接しています。また、北部は稲沢市及び春日町に接し、東部は名古屋市に、西部は甚目寺町に接しています。

地形は比較的平坦で、庄内川の下流域にあり、ほとんどの地域が海抜 10m未満となっています。また、庄内川のほかには新川、五条川などの河川が流れ、豊かな水辺環境に恵まれ、四季折々の風景を楽しむことができます。

交通は広域の利便性に恵まれ、ＪＲ東海道本線、名鉄名古屋本線･犬山線･津島線及び東海交通事業城北線の鉄道網のほか、東名阪自動車道、国道 22 号、国道 302 号などの道路網により周辺都市との連携が図られています。

図 2-1 位置図

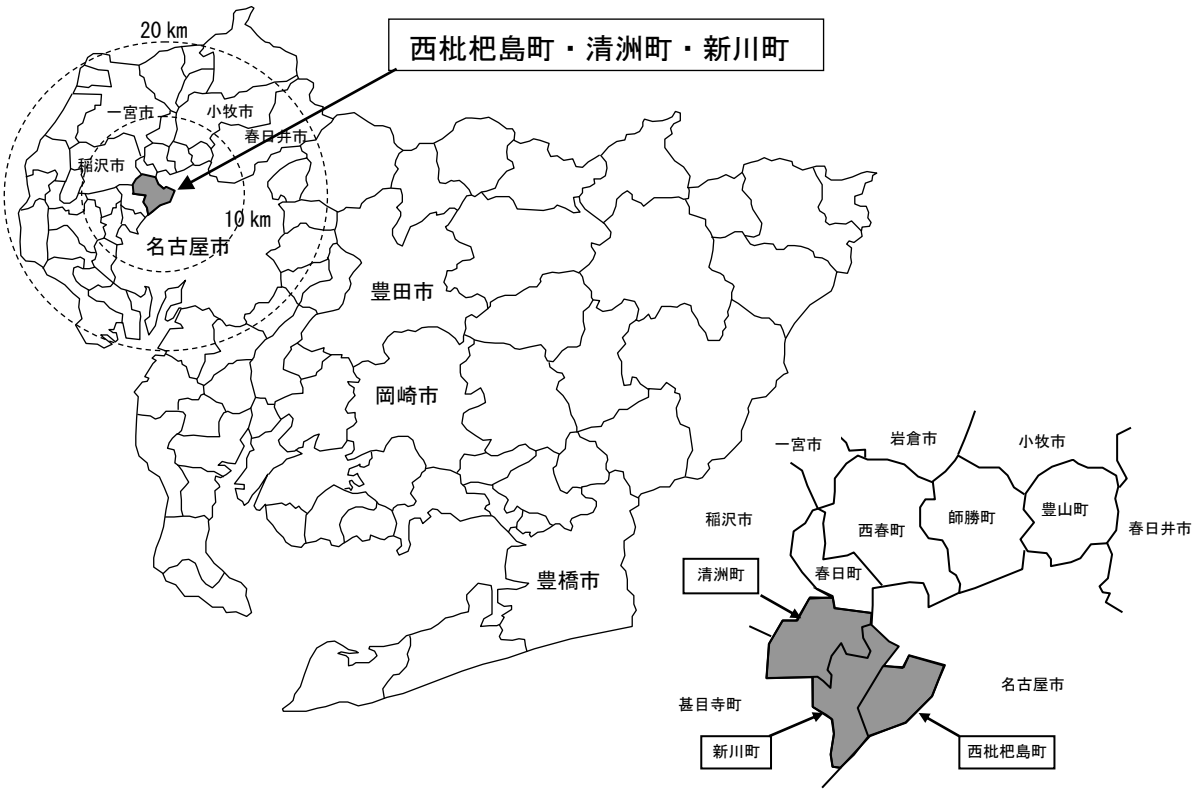
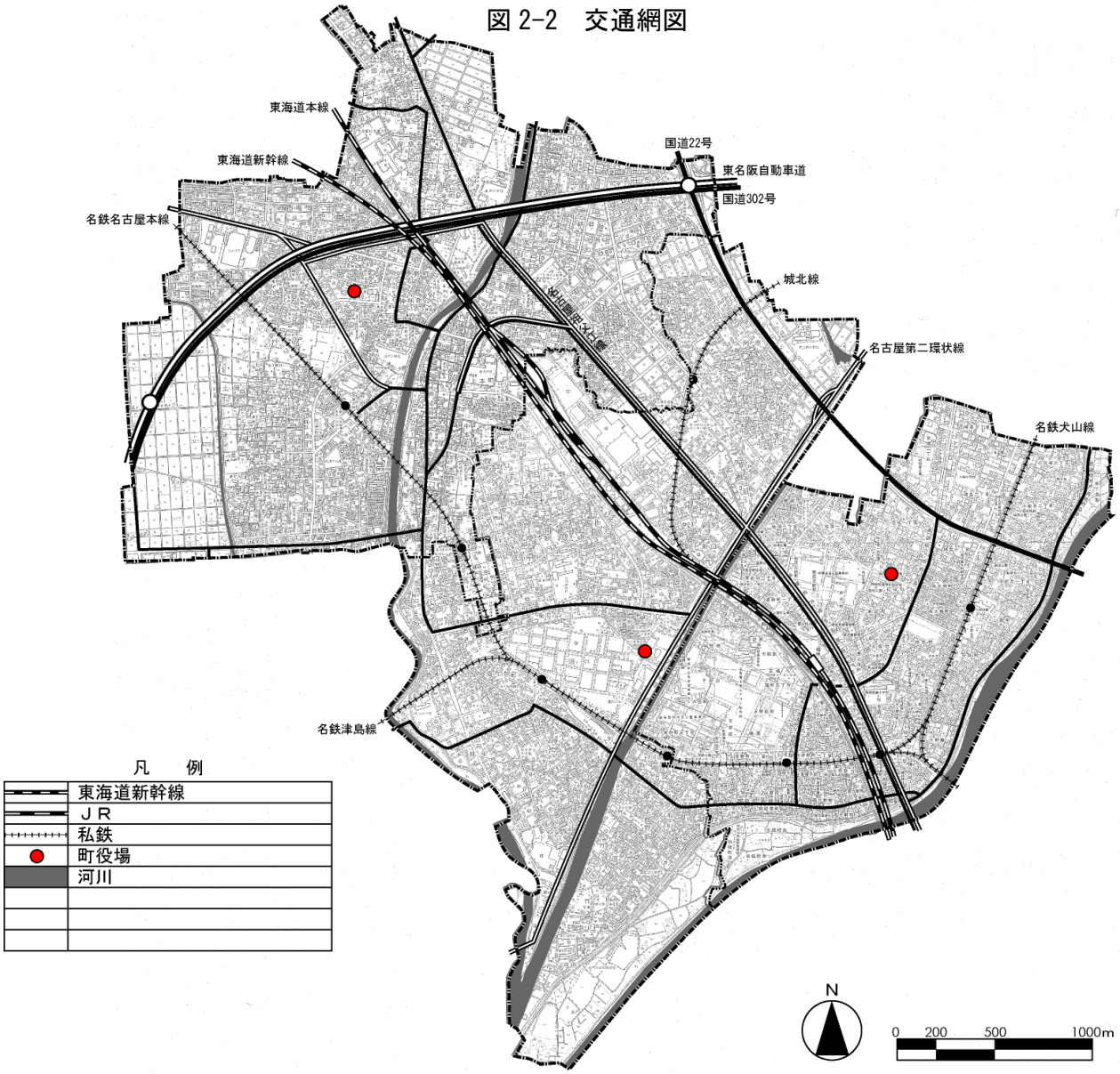


図 2-2　交通網図



３町の総面積は、県内市町村の中で 67 位に相当する 1,331ha で、東西約５km、南北約 5.5km の広がりをもち、愛知県の面積の 0.26%に当たります。地目別では、宅地（44.7%）が最も多く、次に道路（18.2%）、農用地（18.0%）、水面・河川・水路（5.3%）、その他（13.8%）となっています。

表 2-1　地目別面積

単位：ha

	総面積	宅地		農用地			森林・原野	道路	水面・河川・水路	その他 2)
		住宅地	その他 1)	田	畑	採草放牧地				
新市	1,331	329	266	113	127	－	－	242	70	184
構成比	100.0	24.7	20.0	8.5	9.5	－	－	18.2	5.3	13.8

＊注：その他 1）は「宅地」から「住宅地」を除いた工業用地などである。その他 2）は総面積から「宅地」、「農用地」、「森林・原野」、「道路」及び「水面・河川・水路」の各面積を差し引いたものである。

資料：県企画振興部土地水資源課「土地に関する統計年報」平成 13 年

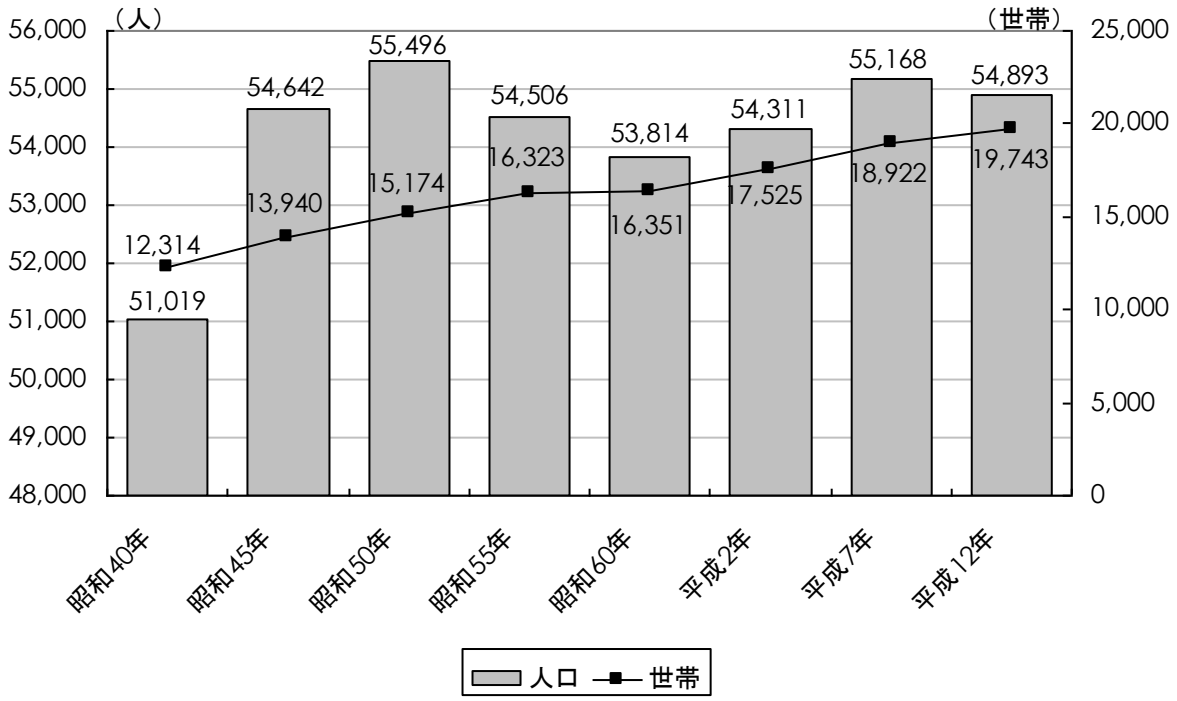
２－２　人口・世帯数

現在の人口は、昭和 40 年から平成 12 年までの 35 年間に約８％増で推移し、平成 12 年には 54,893 人になっています。

昭和 30 年代から 40 年代前半において、３町の人口増加率は全国・県内平均を上回る増加を示していましたが、昭和 45 年以降は微増減を繰り返しています。しかし、人口密度は、41 人／ha であり、県内でも密度の高い地域となっています。

また、３町の世帯数は、一貫して増加しており、平成 12 年には 19,743 世帯になっています。１世帯当たり人員は、昭和 40 年代から一貫して減少し、平成 12 年には 2.8 人となっています。

図 2-3　人口・世帯数の動向



＊資料：各年国勢調査

２－３　歴史・沿革

①　近代以前

３町の区域の歴史ははるか遠く、尾張平野最大の遺跡である朝日貝塚やそれに接する竹村貝塚にみられる弥生時代までさかのぼります。

また、室町時代のはじめ守護所下津城の別郭として築かれた清洲城など数多くの歴史資源が各地に残っています。弘治元年(1555 年)戦国武将織田信長公が那古野城から清洲城へ入城し、慶長年間には城下町一帯が「東海の巨鎮」と称され文化の中心地として、また尾張の要所として栄えた歴史をもっています。

さらに、関ヶ原の合戦で勝利を収めた徳川家康公が通ったとされ、名古屋と中山道を結ぶ最も重要な道路と位置づけられていた美濃街道を、吉例街道として、江戸時代には数多くの大名たちが縁起を担いで通り、家康公の命により開設された青物市場とあわせ、宿場町として大いに栄えた歴史も有しています。

江戸時代中期には、庄内川の氾濫により幾度となく水害にあっていた当地において、多くの農民や地元の役人たちの尊い汗と犠牲により天明７年（1787 年）に新川が竣工されました。その他、江戸時代に製作され、200 年以上の歴史を誇る５輌の山車が練り歩く尾張西枇杷島まつりは、郷土の伝統文化として現代に継承されています。

②　近代以後

近代に入ると、明治 13 年(1880 年)春日井郡が東西の二郡に分かれて西春日井郡が誕生した後、西春日井郡内の町村で合併が繰り返されてきました。西枇杷島町は、明治 22 年(1889 年)下小田井村、小場塚新田村の合併により誕生し、現在に至っています。清洲町は、明治 39 年(1906 年)朝田村、一場村、清洲町が合併し、清洲町となった後、昭和 18 年(1943 年)までに大里村や甚目寺町の一部と合併し、現在に至っています。新川町は、明治 22 年(1889 年)土器野新田村、上河原村、中河原村、下河原村が合併し新川村が誕生した後、明治 23 年(1890 年)に町制を施行し、さらに明治 39 年(1906 年)桃栄町、寺野村、阿原村と合併し、現在に至っています。

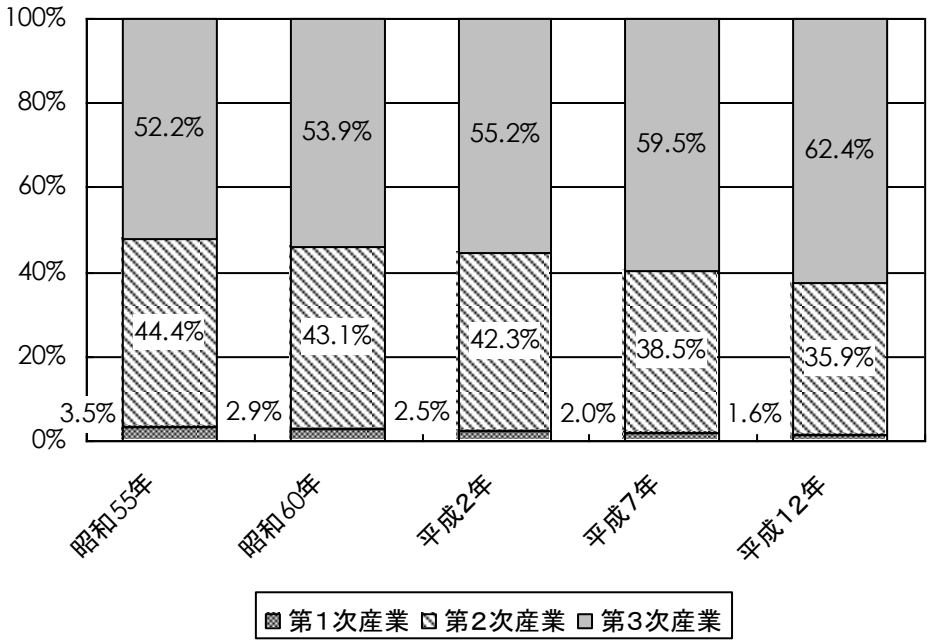
２－４　産業

①　就業構造

３町の産業別就業者数は、28,201 人であり、第１次産業が 1.6%、第２次産業が 35.9%、第３次産業が 62.4%です（平成 12 年)。

３町の産業別就業者人口割合については、昭和 55 年から平成 12 年にかけて、第２次産業就業人口の割合が約８ポイント以上低くなり、第３次就業人口の割合は約 10 ポイント高くなっています。

図 2-4　産業別就業人口割合の推移



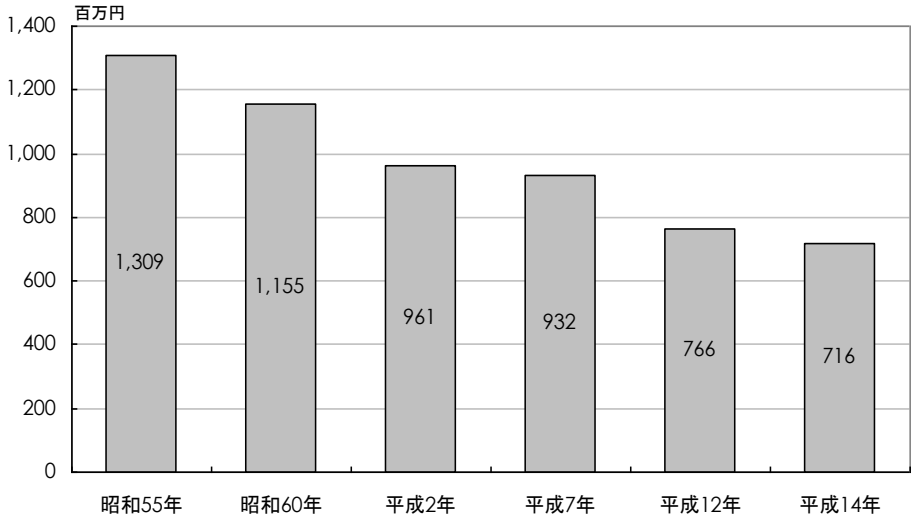
＊資料：国勢調査

②　農業

３町の農業産出額は、平成 14 年が約 7.2 億円ですが、昭和 55 年の 13.1 億円から大幅に減少してきました。

農業産出額の品目別の内訳は、野菜が約 72%、米が約 14%、花きが約 12%と野菜作が中心で行われています。

図 2-5　農業産出額の推移



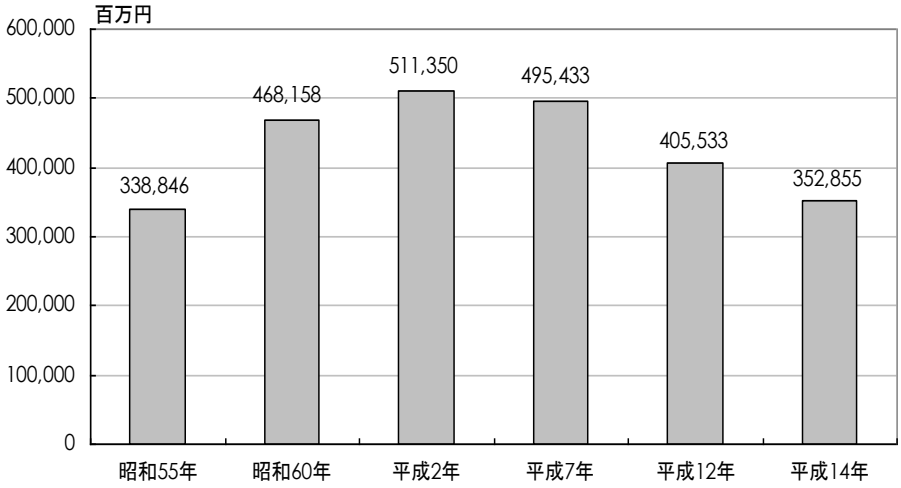
＊資料：東海農政局「愛知農林水産統計年報」

③　工業

平成 14 年の３町の工業の事業所数は 210、従業者数は 8,621 人、製造品出荷額等は 3,529 億円です。

製造品出荷額等の推移をみると、昭和 55 年から平成２年まで伸びましたが、その後は平成 14 年まで減少しています。

図 2-6　３町の製造品出荷額等の推移



＊資料：各年工業統計調査（「あいちの工業」より）

製造品出荷額等について業種別にみると、一般機械が約 36%、電気機器が約 16%とこの２業種で過半数を超え、プラスチック、食料品、輸送機器がやや目立ちます。

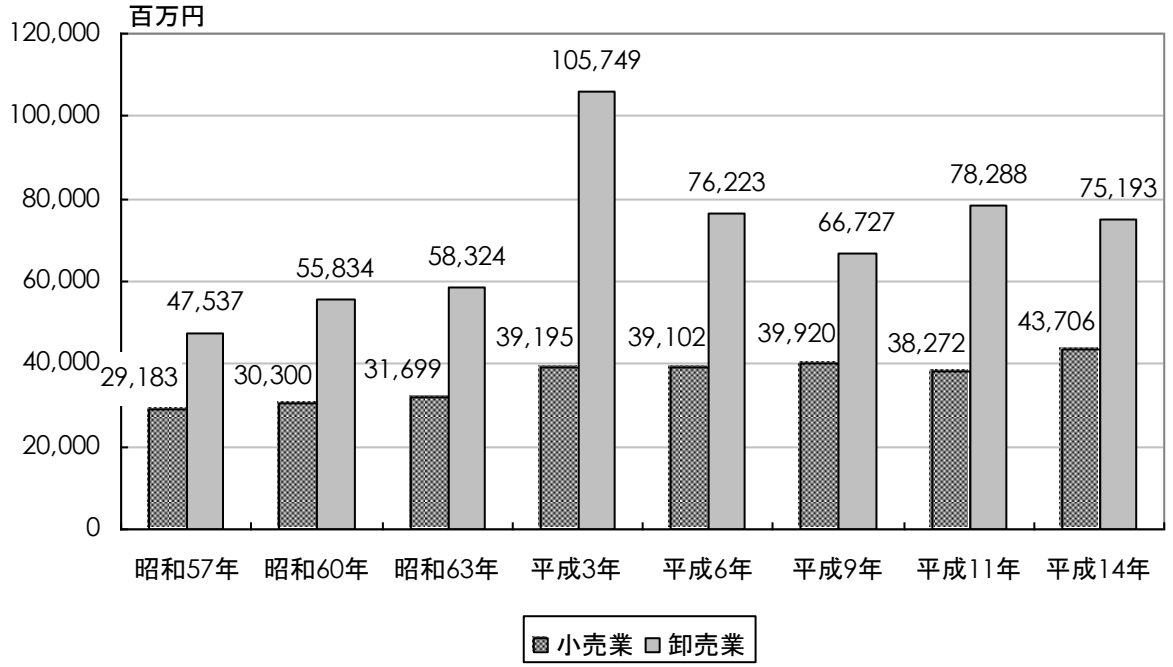
④　商業

３町の卸売業は、平成 14 年で事業所数が 174、従業者数が 1,559 人、商品販売額が 752 億円です。小売業は、事業所数が 505、従業者数が 3,048 人、商品販売額が 437 億円です。

商品販売額の推移をみると、卸売業は平成３年に昭和 57 年の倍増以上を示し、その後は減少して平成９年からやや盛り返しました。小売業は昭和 57 年から緩やかに伸び、おおむね横ばいの時期も経て、平成 11 年から 14 年にかけて伸びています。

小売業の県内市町村における商品販売額の順位をみると、知多市や蟹江町に次いで県内では 30 番目、尾張部では 19 番目になります。

図 2-7　新市の年間販売額（小売業・卸売業）の推移



＊資料：各年商業統計調査（「あいちの商業」より）